

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	20	大学等名	山口大学
テーマ	テーマ I・II 複合型		

【総括評価】

S：計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・従来から進められている教育改革の実績をベースにした本事業の推進により、大学全体の教育改革が着実に進められている。特に、「山口大学教育理念」の整理、「山口大学生に期待される汎用的能力」の明確化は大学教育改革の取組として評価できる。また、国際総合科学部に導入している新カリキュラムシステムは、学生の「学びの好循環」を進める上でその成果が期待され、評価できる。
- ・アクティブ・ラーニング（AL）ポイントのシラバスへの入力率の伸び、全学的展開、新修学支援システムへの学生主導型学生支援機能の追加は、本事業の趣旨に適切に対応した取組と言える。また、FD・SDワークショップの学外公開、高校等教員の参加、アンケート実施を通してALの更なる改善を図っていることは評価できる。
- ・YU-AP事業推進委員会を軸とし、テーマごとにタスクフォースを設置した実施体制により、本事業が着実に進められていることは評価できる。
- ・各学部執行部との懇談会は、全学的な事業運営に有効な取組となっており、評価できる。
- ・内部評価、外部評価の他、教職員、学生参加の「共育ワークショップ」の実施、外部アドバイザーの委嘱など、PDCAサイクルの体制が整備されていることは評価できる。
- ・事業実施環境の整備、専門人材の配置等から、今後の事業継続が見込まれ、評価できる。
- ・事業成果については、ジョイントフォーラムやYU-AP国際シンポジウムの開催等を通して積極的に公開されているほか、他大学からの訪問調査への対応等の波及活動が進められている。さらに、ALポイント、コモンルーブリック、学生参加型のFD、APアドバイザーなど、先駆的モデルの波及は評価できる。